

八 英連邦諸国との通商問題

1 一般問題

393 昭和9年1月30日 在英國松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

マンチエスター商業會議所による最惠国条款
廃棄を企図した同条款検討委員会設置方建言
には賛成しえずとの英國商相見解について

ロンドン 1月30日後発
本省 1月31日前着

第三四號

最惠國條款廃棄論ハ最近當國實業家方面ニ於テ盛ニ唱道セラルニ至リ「マンチエスター」商業會議所ハ政府ニ對シ最惠國條款檢討委員會設置方建言スル處アリタルカ(本月十四日附閣下宛拙信第三一號ノ一及往電第二十八號ノ三參照)

「ランシマン」商相ハ右商業會議所ノ申出ニ對シ「政府

ハ最惠國條款ヲ一律廢棄スルカ如キ事ヲ考慮シ得ス最惠國條款ノ原則ヲ維持スル事ニ依リテハ極メテ重要ナリ素ヨリ最近ニ於ケル財政々策ノ變化ニ依リ該條款ノ個々ノ適用ニ當リ特別ノ考慮ヲ必要トスルハ當然ナルカ該條款ノ適用ニ制限ヲ附シ若ハ全然之ヲ廢棄乃至削除ス可キヤ否ヤハ特定國トノ特定ノ交渉ニ當リテノミ初メテ決定シ得ヘキ問題ナリ故ニ此ノ際政府ニ於テ前記申出ノ如キ委員會ヲ任命スル意向無キ旨ヲ答ヘ其ノ建言ヲ斥ケタリ

二、右ニ對シ三十日ノ「タイムス」ハ論說ヲ掲ケ『商相ノ本件ニ對スル態度ハ商相カ「チエムバーレン」ト共ニ經濟會議ニ於テ採リタル態度ト同一ナリ最惠國條款ヲ不満足ナリトスル最近ノ例トシテハ例へハ獨逸ノ玩具ニ付英國カ許容シタル稅率ハ無條件ニ日本若ハ知恵古ニ均霑セラル可ク又最近英國カ高價ナル犠牲ヲ拂ヒテ亞爾然丁ヨリ得タル金物及織物ニ對スル稅率モ其ノ儘日本及米國ニ依

リ均霑セラルカ如キ事例アルモ同時ニ英國カ同様ニ均霑スル場合モアリ彼我考慮スルニ必要且適當ノ制限ヲ附シテ該條款ヲ維持スルコト便宜ナル可シ』トノ論旨ヲ以テ前記商相ノ言ヲ支持シ居レリ御参考迄

394 昭和9年2月6日 在英國松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

日本および滿州国との通商問題に關する英國
下院での討議内容について

ロンドン 2月6日後発
本省 2月7日前着

第五六號

五日ノ下院ニ於ケル本邦貿易關係議事左ノ通

「一議員ヨリ香港ニ於ケル日本「セメント」ノ「ダンピング」ニ付注意ヲ喚起スル所アリ自治領省次官之ニ答ヘ右ニ關シテハ既ニ香港總督ト照復シタルカ同總督ハ自由港タル同港ノ貿易ニ關スル諸般ノ事情ヲ考慮ニ入レタル結果本件ニ干渉スルハ好マシカラストノ意見ヲ報告シ來レル旨説明セリ

三、常ニ日本ノ競爭問題ノ先頭ニ立テル一議員ヨリ首相ニ對シ紡績問題討議ノ爲日程ヲ割愛セんコトヲ要求セルカ首相ヨリ本件ハ下院ニ於テ既ニ數回討議セラレタル上最近商相自ラ「マンチエスター」ヲ視察シタル次第モアリ目下ノ状態ニテ此ノ上本件ヲ討議スルモ益ナシト思考スル旨書面ニテ回答セリ

「コルヴィル」次官ハ一九三〇年八月商務書記官ヲ哈爾賓ニ駐在セシメタルコトアルモ他地方ニ置クヲ一層緊要ナリト認メラルニ至リ之ヲ北平ニ移シタリ且下滿洲ニ於ケル英國ノ通商上ノ利益ハ領事ニ依リ充分保護セラレ居ルモ問題トナレル點ノ重要ナルハ充分ニ之ヲ認ムルヲ以テ政府トシテハ慎重ニ事態ヲ注視スヘキ旨書面ニテ回答セリ

395 昭和9年4月11日 在カナダ德川(家正)公使宛(電報)

八 英連邦諸国との通商問題

法開始したきにつも同問題の主要因と考え得る

同国諸種輸入関係税の賦課状況査報方訓令

本省 4月11日後8時20分発

第一〇號

本邦對加貿易關係ハ此數年來極メテ不満足ナル狀態ニ在ル處右本邦輸出ノ減少ハ同國購買力減少ニ因ルヨリモ寧口關稅引上特惠制度強化爲替「ダンピング」稅賦課ノ結果ナルヘク特ニ爲替「ダンピング」稅ハ本邦品ニ對スル差別的關稅ニシテ其ノ影響甚大ナリ本問題ハ漸次本邦朝野ノ注意ヲ喚起シ現ニ通商擁護法案審議中議會ニテモ問題トナレル次第ニシテ此ノ儘放置シ難キニ付近ク加奈陀ト交渉ヲ開始シ度キ考ヲ以テ研究ヲ進メ居レリ就テハ右ニ關シ御心付ノ點至急電報相成度シ

尙参考ノ爲爲替「ダムピング」稅ニ關シ左記諸點承知致度ニ付回電アリ度ク又一九二九年以降ノ貿易年表及最近ノ年表以後ノ貿易月表各三部送付アリタン

(一) 課稅評價額決定ノ爲ノ圓ニ對スル現行公定相場

(二) 本稅ハ加奈陀ニ同種物品ノ生産アル場合之ヲ賦課スル建前ナルニ付本邦商品ニテモ之ヲ免レ居ルモノアル筈ト思

(三) 關稅定率法第六條第九項ニ依レハ總督ハ爲替下落國ニ付必ズシモ公定相場ヲ決定スルコトヲ要セス又公定相場モ其ノ裁量ニ依ルヘキモノナルニ付爲替下落國中本稅ノ適用ヲ免レ又ハ其ノ適用ヲ受クルモ公定相場適用品目ノ範圍等ニ付我國ヨリモ有利ナル取扱ヲ受ケ居ルモノアルヤニ思考セラル處此點ニ付主要國ニ對スル加奈陀ノ取扱振

(四) 右有利ナル取扱ヲ受クル國アラハ此等諸國ハ右ニ對シ加奈陀側ニ何等對價ヲ提供シ居ル次第ナリヤ

396 昭和9年4月19日 在ケープタウン藤村(信雄)領事より
広田外務大臣宛(電報)

南アフリカにおける為替ダンピング稅賦課改

善につき同國關係當局に申入れについて

ケークラウン 4月19日後発
本 省 4月20日前着

第三七號
〔^①〕本官着任以來連日當國外務、商務、大藏大臣及各次官、關稅局長及「ボード、オブ、トレード、エンド、インダストリース」議長等三面會本邦側カ本季節ニ犠牲ヲ忍ンテ羊毛買付ヲ行ヒ日阿貿易調節ニ努力セル熱心ナル誠意ヲ強調說明シ夫ニモ拘ラス南阿政府ハ最近爲替「ダンピング」稅ヲ賦課セラルヘキ本邦品目ヲ增加シ且今回ハ右稅率ニ付商品價格ノ五割以内トノ制限ヲ撤廢セントスルノミカ(往電第三三號參照)更ニ又一般稅率中「一二二種目」ノ增率方ヲ議會ニ提案セントシツアル由ナルカ斯テハ啻ニ右本邦側ノ誠意ヲ無視スルノミカ愈日阿貿易關係業者ニ不安ノ念ヲ與ヘ且次年度ノ羊毛買付ヲモ阻害シ至極遺憾ナリ依テ南阿側ニ於テ本邦側ノ誠意ヲ解シ此ノ際事態改善ノ爲何等カノ特別考慮ヲ加ヘラレンコトヲ望ム旨力説シ

殊ニ外務次官 Bodenstein 商務次官 Lamont 及「ボード、オブ、トレード、エンダストリース」議長

(一) 其ノ計畫中ノ爲替「ダンピング」稅ノ五割制限撤去案ヲ Fahey ニ對シテハ此ノ際南阿政府ニ於テ撤回スルコト

(二) 現ニ右稅ヲ賦課セラレ居ル本邦品目ニ付右賦課カ國內產業保護上安當ナリヤ否ヤヲ再審查スルコト
(三) 將來ニ於ケル一般關稅增率又ハ「ダンピング」稅賦課ニ付豫メ内外關係業者ノ公聽會ヲ開クコト
四羊毛以外ノ南阿生產品ニテ本邦向ヶ適品ノ調查研究ノ爲一機關ヲ組織スルコト
ヲ要求シ差當リ特ニ右(一)及(二)ニ付テハ其ノ慎重ナル考慮ヲ要請シタルカ何レモ熱心ニ之ヲ傾聽シ所管大臣ニ之ヲ傳達スルト共ニ關係省トモ協議ス可キ旨回答セリ
(四) 本官カ右諸會見ニ於テ得タル印象ニ依レハ當國政府側ハ一方今日迄本邦側今回ノ羊毛買付ニ關スル誠意アル態度ニ付全ク認識不足ナリシト共ニ他方爲替「ダンピング」稅賦課ノ目的タル國內產業保護ノ必要ハ力説スレトモ本官ノ本邦品ハ果シテ南阿產業ヲ爾ク脅威シ居レリヤトノ質問ニ對シテハ

(三) 本件調査ノ主任官タル前記 Fahey ハ右ハ靴其ノ他少シ計リノ産業ヲ除キテハ利害關係者及新聞ノ誇張ニ過キストシ大藏次官モ同様ノ意見ニテ又關稅局長 Heddon ノ如キハ右稅賦課ノ制度アル爲利(二)主義者流ノ請願ニ依リ同制度カ

濫用セラレ無意味ナル産業保護力行ハレ居ルコトヲ内話シ
商務次官サヘモ本官ノ例證セル「ウツドン、ボツクス」ニ
付右課稅ノ不合理ナルコトヲ認メタル位ニテ今少シク精密
ナル議論ヲ以テ强硬ニ迫レハ這間ニ幾分ナリ共事態緩和ノ
餘地アルニアラスヤトモ認メラル

三、依テ本官ハ更ニ各方面ノ情報ヲ蒐集後本邦側主張ヲ徹底
スル爲當國政府ニ對シ近ク前顯要求ノ次第ヲ書面ヲ以テ申
入ルルト共ニ關係大臣ニ面會ヲ求メ其ノ政治的考慮ヲ要請
スル豫定ナルカ右ニ關シ何等御氣付ノ點有ラハ至急御電報
ヲ請フ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

397 昭和9年4月22日 在カナダ徳川公使より  
広田外務大臣宛(電報)

### カナダにおける諸種輸入關係税の賦課状況と

これに対する我が方対処方策について

オタワ 4月22日後発  
本省 4月23日後着

貴電第一〇號ニ關シ  
第二九號

(一)公定相場○、九八五弗  
(二)密柑、生糸ノ如キ無稅品ヲ別トシ茶、蟹罐詰、鮪罐詰、  
米、醤油其ノ他日本食料品、玩具(人形、木製玩具其ノ  
他ノ例外アリ)、「メンソル」等薬剤、寶石等ハ爲替「ダ  
ンピング」稅無キモノノ例ナリ輸出ノ見込アルモノニシ  
テ爲替「ダンピング」稅無キモノニ關シテハ尙研究ヲ要  
スル次第ナルカ養殖眞珠、醫療器具、齒科材料、化學製  
品ノ如キヲ上ケ得ヘキカ  
(三)(2)法定平價ニ對シ5%以上爲替相場下落シ居ル國ハ目下日  
ノ

本ノ外伯刺<sup>(ホウカ)</sup>西爾、丁抹、芬蘭ナルカ何レモ平價ニ基キ公  
定相場〔「プロクレイムド、ヴァリュー」〕ヲ定メ居リ其ノ  
間差別無シ爲替「ダンピング」稅適用振ニ關シテモ當地  
關稅當局「トロント」及「モントリオール」當業者方面  
ニ付一應取調ヘタルカ差別待遇アルヲ聞カス

(四)關稅定率法第六條「クラス、オア、カインド」決定ハ頗  
ル廣義ニ解釋適用サレ其ノ間嚴格ナル基準有リト云フヲ  
得ス稅關吏スラ不明ノ場合多數ニシテ輸入申告ノ都度中  
央當局之ヲ裁決シツツアリ其ノ曖昧ナル事例ヲ擧クレハ  
(1)「セルロイド」人形ノ如キ「セルロイド」製品トシテ  
ハ加奈陀ニ產セサルニ人形類ト認メ爲替「ダンピング」  
稅ヲ課シ

(2)同種品ハ產セサルモ國產代用品ト競争トナル爲同シ  
「クラス、オア、カインド」ト看做シ課稅シ(羽二重、富  
士絹、「ボンジー」)ノ如キ此ノ類ニ數ヘ得可シ  
(3)各種輸入品ニ付一、二小規模ノ類似品製造工場設立セ  
ラレ「マヌファクチュアース、アソンシエーション」等  
ヨリ申告有ルヤ其ノ重要サノ如何ニ拘ラス

(4)當該外國品「ダンピング」稅ヲ適用ス

(5)課稅基準曖昧ニテ通商障碍鮮カラサルハ「オタワ」會議  
(關稅ニ關スル決議參照)及佛加關稅協定(同協定第十三

條参照)締結ノ際ニモ他國側ニテ問題トセル次第ニテ夫  
レニモ拘ラス從來ノ方針ヲ多ク變セサル實狀ナルモ前記  
「クラス、オア、カインド」決定ノ範圍ノ如キニ關シテ  
ハ手加減ノ範圍大ナル丈ケ我方ニ於テモ實際ノ品目ニ付  
研究ノ上適宜有利ノ解釋適用ヲ爲サシムル様交渉ノ餘地  
アリト見ルヘシ(例へハ昭和八年七月二十二日公第一  
六號參照)尤モ近年我對加輸出激減ノ最モ重要ナル項目  
ハ「テキスタイル」ニアル次第ナルカ同工業ノ保護ハ當  
國政府殊ニ現保守黨政府ノ頗ル重キヲ置クモノナルハ考  
慮ニ容レ置ク必要アルヘシ尙課稅評價額決定ノ爲公定相  
場ヲ現在ノ如ク法定平價トセス多少引下ケシムルコトハ  
頗ル困難トハ認メラルモ英國輸出品相場ノ騰貴ニ應シ  
英加公定相場ヲ法定平價以下ニ引下ケタル實例アリ(昭  
和六年十月二十七日公第一三五號往信參照)

(六)關稅事項ニ關スル難局打開ノ最良法ハ本邦製造業者及輸  
出業者カ相手國輸入業者又ハ販賣業者ト呼應シ同國政府  
若ハ「タリフ、ポート」ニ對シ其ノ主張ヲ高調スルニア  
リテ我官憲ハ寧ロ側面ヨリ之ヲ援助スルコト最モ有効ナ  
リトス本使ノ持論ハ今日ニ於テモ變ルコト無シ

(七)本件交渉ハ結局兩國間ノ經濟的協力ヲ精神トシテ行ハル  
ヘキモノナル處一九三〇年加奈陀商業會議所主催實業視  
察團ノ本邦訪問ニ對シ本邦側ヨリハ未タ此ノ種團体ノ來  
訪無ク幸ニ當國ノ景氣モ多少好轉シ本邦團体ノ來訪ヲ歡  
待シ得ル時期トナリ居ル様認メラルニ付經濟的協力精  
神ヲ現ハス「ジエスチュー」トシテ實業團ノ派遣ヲ試  
ムルコトハ相當有益ナルヘシト思考セラル過般「モント  
リオール」ニ於ケル加奈陀商業會議所ノ會合及晚香坡對  
日貿易關係有志者會合席上ニテ「ノン、コムミツタル」  
(トシテ)此ノ事ヲ述ヘタルニ何レモ贊意ヲ表シ居リタリ  
御一考ヲ請フ

398 昭和9年4月24日 在カナダ外務大臣より  
在ケープタウン藤村領事宛(電報)  
本邦品に対する通商障礙となる新措置を南ア  
政府がとらないとの保障がない限り来季の羊  
毛買付努力はない旨同國側へ注意喚起方訓令  
本省 4月24日後9時発

第二二號

399 昭和9年5月5日 在カナダ外務大臣より  
在カナダ外務大臣宛(電報)  
英國による輸入割当制実施問題に關しカナダ  
は独自の方法により日本品輸入を有効に防止  
しているとの同國政府當局意見について

オタワ 5月5日後発  
本省 5月6日前着

第四二號

英國及直轄植民地ニ對スル日本品輸出制限方ニ關シ五月三  
日英國商務大臣ヨリ松平大使ニ申入レタル次第アリトノ倫  
敦A.P.通信ニ關シ四日ノ「トロントスター」ハ「オタワ」  
特電トシテ要旨左ノ如キ記事ヲ掲ケタリ  
「ベネット」首相ハ不在ナリシモ他ノ最高當局ハ官邊ノ意  
見トシテ日本品ニ對スル加奈陀產業保護ノ問題ハ「オタワ」  
會議ノ協定事項トハ全然關係無ク又財政々策ニ關スル自治  
領ノ獨立性ニ省ミ尙又加奈陀ハ既ニ爲替「ダンピング」稅  
ニ依リ日本品輸入ヲ有效ニ防止シ居リ英國トハ其ノ立場異  
ルヲ以テ加奈陀ハ英國ノ對日經濟戰ニ引込マル事無ク又  
引込マル事ヲ欲セストノ趣旨ヲ語リ尙加奈陀ノ對日輸出  
方ニ關シ御配慮アリ度シ

ハ客年度ニ於テ三三、七%増加シ日加貿易尻ハ米國經由入ノ生絲絹物等ヲ計算ニ入レテモ尙九割方加奈陀側ニ有利ニシテ屢論セラル護謨靴及護謨製品ノ如キ客年ハ夫々五千五六百弗ノ輸入ニ止マレリトノ趣旨ヲ附言セリ云々尙「シティズン」等モ右ト大体同様ノ記事ヲ掲ケタリ

英へ轉電シ晚香坡へ郵送セリ

400 昭和9年5月7日 在シドニー村井(倉松)總領事より  
廣田外務大臣宛

**通商問題を中心とするニュー・ジャーランド首脳との会見内容について**

機密公第七〇號

昭和九年五月七日

在シドニー

(6月12日接受)

外務大臣 廣田 弘毅殿

新西蘭出張中官憲トノ會談等報告ノ件

本官今般御許可ヲ得着任挨拶ヲ兼ネ管内視察ノ爲四月十二日當地發新西蘭ニ出張五月五日歸任セル處新西蘭滯在中首

總領事 村井 倉松(印)

相ヲ初メ財務兼關稅大臣、内務兼商工大臣、同次官、關稅次官等ト會見シ尙他ノ重ナル官民トモ出來得ル限り接觸ノ機ヲ作ルニ努メタルカ之等會談中何等御参考ニ資スルト認メラル點ヲ左ニ摘出シ本官ノ感想ト併セ報告申進ス

御查閱相成度

記

一、商工次官 Clinkard, Secretary of the Dept. of Industry and Commerce ニ會見ノ際通商其他ノ事項ニ付何等我方ニ對スル苦情若シクハ註文ナキヤト尋ねタルニ格別苦情ト申程ノ事ニハアラサルモ實ハ日本ニテハ林檎ノ輸入ヲ禁止シ居ル處右ハ不口得トスルモ其ノ積換迄モ禁止セラルハ少シク酷ナリ右ハ害蟲ノ移入ヲ防クトノ趣旨ナリトノコトナルカ積換ヲ許シタリトテ左程ノ危險ヲ冒スモノトハ思ハレス若シ必要ナレハ更ニ検査ヲ嚴ニシテ證明書ヲ下附スル等ノ手段ヲ執ルモ差支ナキカ右積換禁止文ヲ解除セラルコト叶ハスヤトテ本件交渉ノ經緯等説明シ(客年一月十九日附在本邦英國大使宛外務大臣往翰參照)日下林檎ノ輸出ハ微微タルモノナレハ大問題ニハアラサルモ若シ右積換許サルルコトナラハ或ハ支那迄ニ多少ノ輸出ヲ見ルヤモ知

レス其ノ際ハ大阪商船ノ船ニテ神戸ニ送リ同地ニテ積換ノコトトナルヘキヲ以テ大阪商船モ利益スル次第ナリ云々トノ話アリ

本官ハ本省へ報告シ考慮ヲ求ムヘキ旨ヲ約スルニ止メ置キ

タルニ付御考慮相仰度

三、商工次官ハ本官ヨリ特ニ水ヲ向ケタルニ拘ラス所謂日本品「ダンピング」ニ付テハ何等苦情カマシキコトヲ云ハス

單ニ從來新西蘭商人ハ主トシテ英國品ヲ取扱ヒ居リタル爲日本品ノ輸入增加ニ依リ直ニ其ノ利益ヲ脅カサレタル爲一時騒キタルニ過キスト輕ク片付ケ日本品カ往往英國品ノ意匠等ヲ眞似ルコトニ付テ苦情ヲ聞ク旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ右ハ商業道德上面白カラサルモ聞ク所ニ依レハ<sup>(アッ)</sup>并ハ多クノ場合貴國商人ヨリノ註文ニ依ルト云フニアラスヤト反問セシニ同次官ハ笑ヒナカラ之ヲ肯定シ洵ニ其ノ通ニシテ從テ實ハ苦情カマシキコトモ云ヒ得サル譯ナリト述ヘタリ

三、新西蘭所在ノ銀行ハ從來 London Agreement ナルモノ

ヲ楯ニトリ正金銀行ニ當座勘定ノ開設ヲ許ササル爲邦商ノ取引上頗ル不便ヲ感シ居ルトノコトヲ聞キタルニ付本官ハ右會見ノ機會ヲ捉ヘ之ニ言及シ右ハ新西蘭ヨリ本邦ヘノ輸

前回ハ一九二七年ニ修正ヲ施シタリ云々ト述ヘ日本品ノ競争問題ニ付テハ之ハ單ニ一時的ノ現象ニ過キス曾テ獨逸國ニ付テモ同様ノ問題起レルモ永續セサルニアラスヤ通商ニ

付テハ各國共 Fair chance フ與ヘラレサルヘカラス云云トシテ言卒直ニハアラサリシモ如何ニモ我方ニ同情アルカ如キ態度ヲ示シ日本品ノ英國品模倣問題ニ付テモ其ノ非ハ寧口新西蘭商人ニアリトシ商人トシテ得意ヨリ品物ヲ送ラレ之ト同様ノ品物ヲ造レト云ハルレハ之ニ應スルハ人情ナリ

云云ト述ヘタリ

同人ハ約三十年ニ亘リ關稅事務ヲ掌リ斯界ノ權威タルト同時ニ Tariff Commission ノ主腦タルニ鑑ミ同氏ノ態度ハ頗ル興味アリト存ス

云前記商工次官並ヒニ關稅次官トノ會談ニ鑑ミ本官ハ新西蘭當局ニハ日本品ノ進出ニ對シ格別反感ヲ抱キ居ラサルヤノ印象ヲ得タルカ更ニ之ヲ確カムル爲「ウエーリントン」ニ於ケル我名譽領事タル「ファラ」ノ意見ヲ訊シタルニ新西蘭商人ハ從來英國品ノミヲ取扱ヒ居リタルヲ以テ日本品ノ進出ヲ以テ自己ノ利益ヲ脅スモノトナン反對氣勢ヲ揚ケ其ノ間英國商人ノ策動モアリ旁旁一年程前ニハ日本品ノ問題大分喧シカリシモ現在ハ殆ト終熄セリ

其ノ理由ハ恐ラク目下新西蘭ハ尙不景氣ニ苦シミ居リ民衆ノ所得減退セルヲ以テ安價品ヲ歡迎シ一部利害關係者ノ策

動ニ乘ラス又商人自身モ漸次日本品ヲ取扱フニ至レルニモ因ルヘキカ政府トシテモ大衆ノ收入減退ノ今日無暗ニ輸入品ノ價格ヲ高ムルカ如キ方策ハ執リ得サルヘク旁旁來ル關稅改正モ特ニ日本ニ不利ナルカ如キ提案アルヘシト思ハレス云云ト述ヘタリ

六以上ノ外幾多ノ新聞記者並ニ商人等ト接觸ノ結果得タル印象ニ依ルモ新西蘭ニ於テハ安價ナル日本商品ニ對スル反映ハ稀薄ナルカ如シ寧口彼等ノ最大關心否寧口唯一ノ關心ハ目下不況ノ底ニアル其ノ主產物タル「バター」「チーズ」ノ販路ヲ東洋ニ見出サムトスルコトニシテ本官ハ到ル處殆ト之ニ關聯セル質問ノミニ惱マサレタリ

從來新西蘭ハ其ノ產物ハ殆ト悉ク英本国ニ於テ吸收シ得ルモノト信シ他外國トノ貿易ニ付テハ殆ト無關心ナリシモノノ如クナルモ最近英國ニ於ケル「バター」輸入制限等ニ依リ俄然其ノ蒙ヲ啓カレ急ニ其ノ注意ヲ他外國殊ニ東洋方面ニ向クルニ至リツツアルカ如ク上述ノ如ク新西蘭產品ノ市場トシテ東洋ニ目ヲツクルノミナラス商人ハ安價ニシテ品質モ著シク改善セル日本品取引ノ利益ヲ見日本トノ取引ヲ希望スルモノ日ニ增加シツツアル模様ナリ

云新西蘭ハ人口百五十萬餘ニ過キス邦人在留者モ一時的ノ旅行者ヲ除ケハ五指ヲ屈スルニ足ラス貿易關係モ左程重要ナラサリシ爲今日迄當館ノ管轄區域トシテ事實上ハ殆ト閑却セラレ來レル嫌ナキニアラサル處今年度ハ日本ノ羊毛買付ノミニテモ約七拾五萬磅ニ達スヘシト謂ハレ日本品ノ進出モ著シキモノアリ將來相當根強キ地盤獲得ノ望ナキニアラスト信セラル

此際施設ノ點ニ於テ南阿、「ケニヤ」等ニモ劣ルカ如キ狀態ニ放置セラルハ遺憾千萬ニ存セラル

人口稀薄ナレハ貿易額ノ大ハ期待シ得サルヘキモ人民富裕ニシテ民心健實ナレハヤリ様ニヨリテハ比較的安全確實ナル市場ヲ確立シ得ヘキヲ以テ此ノ際尠クモ一個所位ニハ領事館ヲ設置セラルカ不已得ハ不敢當館ノ出張所ナリトモ設置方御考慮相成度

ハ新西蘭所在ノ外國本任領事ハ別表ノ通ニシテ之ニ依テ見ルモ我方トシテ一ノ領事館ヲモ有セサルハ甚タ立遲レノ感

アリ

更ニ新西蘭ハ「オーストレレシア」ナル名稱ノ下ニ濠洲ト一括指稱セラルルヲ嫌ヒ在「シドニー」總領事カ新西蘭ヲ

モ管轄スルカ如キコトヲ兎角欣ハサル風アリ又邦人在留者ノ少キハ領事館設置ノ理由ヲ薄弱ナラシムトノ意見アルヤモ測ラレサルモ見様ニ依リテハ却テ其ノ理由ヲ強ムルモノトモ謂ヒ得ヘシ

既ニ有力ナル邦商ノ支店等設置セラレ貿易ノ利便備ハルニ至ラハ貿易助長機關トシテノ領事館ノ效能ハ頗ル微微タルモノト存セラルルモ今日ニ於テハ商社ハ採算上未タ支店設置ヲ便トセサル様子ナレハスル際ニコソ國家的施設ノ效用ヲ發揮シ得ル次第ナラスヤト思考セラル

此點ニ付申添ヘタキハ在「ウエーリントン」名譽領事ノ如キモ近來商賣上ノ照會激增シ其ノ處理ニ困難ヲ感シ居ル模様ニシテ現ニ本官ニソレトナク之ヲ諷シ貿易事務取扱者ノ派遣ヲ希望シ居レルコトナリ

又本官ノ會見セルニ三ノ商人ハ名譽領事ハ日本ノ事ヲ知ラス自分等ニ餘リ役立タヌコトヲ澤シ切ニ日本本任領事ノ設置ヲ希望セリ

六尚右ニ關聯シ先般死去セル在「オークランド」名譽領事ノ後任問題アル處右ニ付テハ別信ヲ以テ申進ス

六果又滿洲問題ニ對シテハ一部識者ハ別トシ一般民衆ハ殆

ト無關心ニシテ新聞記者ノ如キモ之ニ關シテ何等質問ヲ發スルコトナク偶偶本官ヨリ水ヲ向クルモ大衆カ此種ノ事ヲ理解セストテ却テ之ヲ避ケル風アリタリ

但シ日本ノ濠洲竝ニ新西蘭ヘノ侵略ノ危惧ハ自國國防不備ノ反映カ一般ニ行キ亘リ居ルカ如シ

大衆ハ日本ニ接スルコト殆トナキ關係モアリ日本ニ對スル理解頗ル薄キヲ以テ如何ナル宣傳モ鶴呑ミニセラルル惧アリ

而カモ新西蘭ニハ支那人ノ在留者頗ル多ク「ウエリントン」

ニハ本任ノ領事サヘ駐在シ居ルニ我方ハ在留民サヘ上述ノ通數名ニ過キスシテ何等爲ニスル宣傳行ハルモ之ニ對抗スルモノナク默默トシテ敵ノ跳梁ニ委スル有様ナリ

今日ノ處幸ニシテ上述ノ如ク大ナル反感ナキモノノ如クナルモ時勢ノ變化ハ逆睹シ難キ次第ナレハ豫メ之ニ備フルト

同時ニ常時日本ノ理解ヲ進メ經濟的發展ノ基礎ヲ固メユクコト必要ナリト存ス

此點ヨリモ領事館設置ノ必要ヲ痛感スル次第ナリ

新西蘭本任領事官

資 格

任 地

國 名

|     |     |     |        |
|-----|-----|-----|--------|
| 白耳義 | 領事  | 領事  | ウエリントン |
| 支那  | 領事  | 領事  | オークランド |
| 佛蘭西 | 領事  | 領事  | ウエリントン |
| 伊太利 | 總領事 | 總領事 | オークランド |
| 合衆國 | 領事  | 領事  | ウエリントン |

401 昭和9年8月3日 在シドニー村井總領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

オーストラリアにおける國內産業保護の觀点よりの特定綿糸および綿布の関税引上げについて

シドニー 8月3日後発

第四三號

七月十三日聯邦政府ハ棉作補助案ヲ議會ニ提出(八月二日兩院通過)セルカ右ハ棉作耕地カ現ニ濠洲ニ於ケル綿糸製造ニ要スル量ノ倍額ヲ產スルニ足り又綿糸工場ハ現在ノ生

産額ノ三倍ノ能力ヲ有ストノ根據ヨリ軍事上並ニ「クインスランド」啓發ノ必要等ヲ考慮シ右兩者ヲ併行保護スルノ

本省 8月3日後着

必要アリトシ濠洲ノ工場需要量ニ其ノ二割ヲ加ヘタル量ニ對シ「リバブール」市價ヲ標準トシ「スライディング、スケール」ニ依リ栽培者ニ補助金ヲ與フルト共ニ(工場需要額ヲ超過スル分ニハ補助ヲ與ヘス)工場ハ右標準市價ヲ規準トセル輸入價格(但シ輸入稅ハ加算セス)ニテ之ヲ買入ルルヲ要シ濠洲產ヲ以テ満タシ得サル種類及分量ハ輸入ヲ許ス趣旨ナリ右ニ基キ政府ハ更ニ關稅改正ノ必要ヲ認メ八月一日右改正案ヲ議會ニ提出シ翌二日ヨリ實施セリ改正ノ要點ハ國內工場ノ製造スル綿糸(殊ニ Cotton tweed 用ノ綿糸)及綿布類ノ稅ヲ著シク引上ヶ普通ノ綿糸ノ稅ヲ少シク引下ケタルニアリ(右引下ハ前記棉作補助案實施期ノ關係上來年四月一日ヨリ實施)

(脱?)稅番ノ分類ニ變更アリタルヲ以テ舊稅番ニ依リ簡單ニ變更ヲ示シ得サルモ我方ニ關係多キモノニ付其ノ大體ヲ示セハ Tweed 用綿糸ハ一般率一封度ニ付七片半乃至十三片四分ノ三(番手ニ依ル)若ハ從價六割五分綿布ハ一碼平方三分<sup>子</sup>「オンス」以上ノモノニシテ普通男子及小供ノ外衣用ノモノ一般率一碼平方一志一片及從價五割若ハ從價七割五分、

漂白セルモノ若ハ漂白セス且染メサルモノ一碼平方六「オ

ンス」以上一八「オンス」以下ニシテ同上ノ用途ノモノハ一般率一平方碼一志及從價五割若ハ從價六割五分、Coloured and jacquered towel ハ一般率ニ一封度十片ノ從量稅ヲ併置セル丈ケニテ他ニ變リナン勿論一般率ノミナラス特惠率モ引上ヲ見タルカ當地本邦當業者ノ意見ニ依レハ右引上ハ日本品ノミナラス英國品ニ對シテモ禁止的ニシテ且全體ノ影響ハ英國ノ方日本ノ五、六倍ナルヘシト云フ

新聞報道ニ依レハ色「タオル」ニ付關稅審査會ハ日本品ニ爲替「ダンピング」稅適用ノ勸獎ヲ爲セルモ政府ハ之ヲ採用セス前記ノ改正ニ留メタル趣ナリ

402 昭和9年8月14日 広田外務大臣より  
在シドニー村井總領事宛(電報)

今次オーストラリアにおける特定綿糸および綿布關稅引上げは我が方綿織物の同國への輸出に影響大につきその緩和を同國政府へ申入方訓令

第三〇號 本省 8月14日後3時20分発

貴電第四三一號後段ニ關シ

今回ノ引上ハ殆ト輸入禁止ニ等シキ處特ニ本邦マリノ綿織物ノ輸出ハ一九三一年四、八五一(單位千圓)一九三二年一〇、〇五七、一九三四年上半期五、八一七ニ達シ對濠輸出總額ノ二割以上ニ達シ右カ今回ノ措置ニ依リ輸出減少ヲ來サハサナキタニ片貿易關係ヲ更ニ激加<sup>(化)</sup>セシメ惹イテ我方トシテハ對濠貿易上ノ根本對策ヲモ考慮セサルベカラサル破目ト相成ル次第ニ付貴官ハ今回ノ引上增加率ヨリ見タル具體的數量上及價格上ノ對日影響ヲ調査セラレ且聯邦政府ニ對シテハ前記我方ノ立場ヲ力説シ此カ緩和方折衝相成ルト共ニ特ニ既契約品又ハ輸送中ノ物ニ對シテハ旧稅率適用方御交渉相成リ右諸結果回電アリ度~~~~~

403 昭和九年八月17日 広田外務大臣より 在シドニー・村井總領事宛(電報)

「次オーストラリコの特定綿糸および綿布の關稅

示上ガが我が方總製品く及ばず影響せ少なあ止ヘ

相談解あつたこゝの回國體首相來電止ヘシ

付 記 八月十五日發レーサム・ホールムハリト副首

相より広田外務大臣宛電報

右オーストラリア副首相來電

本省 8月17日後6時0分発

貴電第四五號ニ關シ

Latham ムリ今回ノ引上ハ濠洲カ產出スル一部ノ綿絲及關稅上ノ保護ヲ與フルニアラサレハ立チ行カサル綿布ニ限りハレタルモノニ過キスシテ日本綿製品ノ受クル影響ハ約七萬磅即チ日本綿布ノ對濠洲輸入價額ノ一割程度ニ止ルノミナラス濠洲ハ主要綿絲ノ輸入稅ヲ五、六片方モ引下ケタル次第ナレハ今回濠洲カ執レル措置ヲ諒トセラレ度キ旨本大臣宛直接打電シ來レルニ付テハ貴官「キヤンガラ」出張ノ節本大臣ノ訓令ニヨリ不取敢今氏直接ノ配意ヲ謝スルト共ニ往電第三〇號ノ趣旨ハ同氏くヤ可然申入ラレタシ

(付 記)

Canberra, Aug. 15th, p.m.

Received, Aug. 15th, p.m., 1934.

His Excellency K. Hirota,

Minister for Foreign Affairs,

Tokio.

Newspaper reports from Japan regarding recent increased duties imposed by Australia on small section cotton goods indicate position misunderstood. Facts are tariff board reported that owing excess production in Australia of raw cotton together with excessive capacity Australian spinners produce cotton yarns it was essential provide tariff protection yarns for cotton tweeds denims dungarees and such piece goods otherwise cotton industry must remain uneconomic. Bounty policy adopted in respect raw cotton confines production at present to cotton goods now subject protective duties and early production outside this range not at all probable. Australian cotton spinning industry has only sixtyeight thousand spindles as against reported eight millions in Japan. New duties can affect to any extent only seventy thousand pounds import trade from Japan which is approximately ten

per cent Japan's cotton trade with Australia or two per cent total imports from Japan. New duties affect United Kingdom trade more than Japan. Also draw your attention to substantial reductions in duties amounting to five pence to six pence per pound made under principal cotton yarn item. Trust you appreciate that principle underlying Australia's action extending protection further small section cotton goods does not differ from principle underlying grant of protection by Japan to her own cotton industry. Trade treaty negotiations your Consul General proceeding. Glad to give any further information desired.

Latham

~~~~~

404 昭和九年八月20日 在シドニー・村井總領事より 広田外務大臣宛(電報)

今次オーストラリコ政府の特許綿糸および綿

シドニー 8月20日後発
本省 8月20日後着

第五〇號

(一) 往電第四五號ニ關シ十八日「カンベラ」ニ赴キ選舉運動

ニテ大臣連不在ノ爲關稅次官ニ面會貴電第三〇號ノ趣旨ニテ懇談セルカ同次官ハ既報ノ綿業保護ノ趣旨特ニ其ノ社會政策的意義ヲ加味スルコト及無制限ノ保護助長ヲ企圖スルニアラシテ現在ノ能力ヲ充分ニ利用セントスルニ過キサルコト從テ影響ヲ受クル品物モ現ニ國內工場ニテ製造セラルル特定ノモノニ限り居ルコト本件ハ言ハハノ「エキスペリメント」ニテ政府ハ監視ヲ怠ラス將來其ノ成績如何ニ依リ改廢ヲ見ルコトアルヘキモ議會解散ノ今日差當リ變更ノ餘地無キコト但シ既約品ノ特別取扱ニ付テハ目下考慮中ナルコト(本官ノ含ミ迄トシテ政府トシテハ或程度迄之ヲ許ス方ニ傾キ居レリト言ヘリ尚右實現ノ際ハ綿糸布ノミ其ノ特典ヲ受クヘク而モ稅番四〇四ノ適用ヲ受ケ舊稅ヨリモ安キ稅ヲ課セラルヘシ右ハ舊稅賦課ノ爲ニハ立法手段ヲ要シ議會解散ノ今日不可能ナル爲斯ル變則ナル手段ヲ執ル次第ナリ「タオル」ハ四〇

四番ニ該當セサルヲ以テ特典ヲ與フルコト困難ナリト言ヘリ往電第四五號直接輸送中ノモノ等ノ特典モ同一原則ニ依ル)

(二) 「レイサム」ヨリ閣下宛電報ニ指摘セル七萬磅推定ノ基

礎ハ影響ヲ受クル品物ノ範圍ヲ知ルニ便ナルヘキヲ以テニテ表ヲ貰ヒ受クルコトニセルカ前電當業者ノ推算ヲモ併セ考ヘ影響百萬圓見當ト見レハ大過無カルヘキカ「タオル」ハ客年公第一六九號拙信等ニテ御承知アルヘキ通り此ノ程度ノ從量稅賦課ハ已ムヲ得サルヘク又影響モ殆ト云フニ足ラス審査會ニ於ケル我方ノ努力大ニ效果アリシモノト思料ス

(三) 貴電第三二號ハ本官出張留守中ニ接到セルカ「レイサム」モ不在ニテ何ノ途御訓令執行出來サリシモ當分面會困難ト存スルニ付書面ニテ然ルヘク申送リ置クヘシ御了承アリ度シ

405 昭和9年9月18日 在英國松山(晋一郎)大使館商務參事官
より
広田外務大臣宛(電報)

我が方一般輸出振興上その影響甚大なる電球

の対英輸出統制徹底方意見具申

ロンドン 9月18日後発
本省 9月19日前着

第一五〇號

我輸出ヲ消化シ堅實且永續的ナル市場ヲ獲得スルノ急務ナルコト言ヲ俟タサル所ナルカ爾來信用經驗及立場等ノ點ニ於テ望マシカラサル輸入者又ハ其ノ时限リノ金儲本位ノ一時的取扱者トノ取引カ我輸出特ニ新商品新販路ノ建設發展ニ多大ノ障碍ヲ與フルニ至り且近時各地ニ於テ本邦輸出品ノ伸展力防壓ノ憂目ヲ舐メツツアル等結局之ヲ事前ニ防カサリシコト其ノ一因タルヘク貴方ニ於テ昨今漸ク當事者間ノ自發的輸出統制促進ニ力ヲ注クニ至リタルコト後馳ナカラ甚タ結構ナルコトト存セラル貴方ニ於ケル輸出統制ハ前述ノ如キ事情ニ顧ミ輸入地ニ於ケル取扱者間ニモ自發的統制ヲ實現シ兩者相呼應シテ輸出ノ伸展ヲ計ルニ非サレハ到底目的ノ貫徹ヲ見ルコト難ク偶々新商品タル家庭用自動車用電球輸出カ數年前ヨリ其ノ端緒ヲ開キ漸次順調ニ歩ヲ進急激ナル大量進出ノ結果之亦折角將來有望ナリシ護謨靴ノ

抑々本取極ノ影響タル金額ニ於テハ僅少ナリト雖本官ノ趣旨ハ單ニ電球ニ止マラス他ノ輸出商品ニ對スル販路ノ確保及健全ナル伸展ヲ計ルニ最有效ナル一工作ト確信スルモノニシテ之ノ成否及之ニ基ク本取極ノ成行如何ハ我輸出全般ノ大局ニ甚大ナル影響ヲ與フルモノニシテ決シテ輕視ヲ許ササルモノト思考ス然ルニ

一、當地輸入組合成立ノ精神ヲ曲解シ基礎條件タル貴地及當地組合員間ノ取引局限ヲ無視シ組合以外ノ商社ニ輸出ヲ許シ

二、第三國ヲ經由又ハ輸出ノ際偽名ニテ輸出シ割當ヲ回避スルモノ續出シ

729

之カ爲折角基礎成リタル今次ノ工作カ實際的ニ破壞セラレントスル狀態ニアル處之カ事前防止ニ對シテハ當地輸入組合並ニ當初ヨリ累次電報警戒シ來リタル處ナルモ何等ノ效果ヲ見ス本邦側統制ノ誠意ヲ疑ヒ前途ニ對シ悲觀スル者少カラサルニ至レリ他方今次ノ取極カ一種ノ紳士協約ニシテ英國政府ハ法律の手段ヲ執リタル譯ニハ非サル故協定數量ヲ超過シ輸入スル者アリト雖稅關吏ハ之カ通關ヲ拒否スル立場ニ無ク前述ノ如キ變態的輸入モ通關ニハ支障ナキ實狀ニシテ唯之ヲ協定數量ニ計上シ從テ超過數量ハ來年度ヘ繰越サルルコト自明ノ理ト推察セラル尙本取極ノ際我方カ輸ナルモノアリ之カ完全ニ實行サルルト否トハ我政府ノ信義ニ及ホス所少カラス今回英國政府ノ發表ニ依レハ同政府カスルハ甚々遺憾ニシテ之(カ)實行上我政府ノ責任ハ最重大ナルモノアリ之カ建前ヲ堅持シ居ルヲ以テ今次ノ取締規約委員勸奨ノ採用ヲ見合セタルハ全ク一時的ノ措置ニシテ唯本邦製電球輸入カ協定數量以内ニ止マル限り差當アランカ來年度ノ割當協議カ意外ノ難關ニ遭遇スルハ勿論

ス
委員ノ勸奨ヲ採用スルコトニ政策轉換ヲ見ルコト無キヲ保
シ難シスル場合護謨靴ノ實例ニ見ルカ如ク殆ト輸入絶望ニ
陥ルヘキハ今次發表ノ關稅諮問委員勸奨ニ現ハレタル附加
稅ノ全然禁止的ナルニ徵シ火ヲ睹ルヨリモ明カナルヘシ
當方觀測右ノ如ク前途誠ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアルニ付貴
方ニ於テモ本件ノ處理緩和ハ我國一般輸出振興上影響甚大
ナルヲ認識セラレ何等效果の方策ヲ執ラレ度ク御考量切望

406 昭和9年10月4日 在カナダ徳川公使より
広田外務大臣宛

日本はカナダ極東貿易の門戸との在本邦カナダ公使会見談について

二及ホス所少カラス今回英國政府ノ發表ニ依レハ同政府カ
關稅諮詢委員勸獎ノ採用ヲ見合セタルハ全ク一時の措置

ニシテ唯本邦製電球輸入カ協定數量以内ニ止マル限り差當
リ之カ採用ヲ見合ストノ建前ヲ堅持シ居ルヲ以テ今次ノ取
極カ我方ノ統制不可能ナル結果有名無實ニ終ルカ如キコト
アランカ來年度ノ割當協議カ意外ノ難關ニ遭遇スルハ勿論

駐日加奈陀公使ノ日本及日加關係ニ關スル
會見談報告ノ件

一、日本ニ於ケル加奈陀ノ利益ハ絶エス擴大シツヽアリ現在ニ於テモ諸大国中ノ或ルモノヨリハ其ノ利益大ナリ
二、日加両國間ノ關係ハ最モ好調ニアリ

一、日本ノ産業ハ急速ニ進歩シツ、アリ且既ニ高度ノ發達ヲ
遂ケタリ日本國民ノ勤勉努力ト組織力ハ賞讃ニ值スルモノ
ノアルカ日本國民ハ藝術ト自然ニ対スル鑑賞力深シ
二、日本ノ貿易、一九三三年ニ大蕭条來ノクレカヨモギ、
ノアルカ日本國民ハ藝術ト自然ニ対スル鑑賞力深シ

日本ノ貿易ハ一九三三年ニ大増ガテ來シタルハカナヘキ附ノ日本ノ輸出入兩方面ニ大關係ヲ有ス即チ日本ハ加奈陀ヨリ原料品及半製品ヲ輸入シ之レヲ製成品トシテ輸出スル

カ故ニ日本ノ輸出増加ハ加奈陀ノ原料品ノ需要ヲ増加ス
支那ハ日本ノ製造品ノ顧客ナルカ故ニ支那ノ日本品ノ需
要增加ハ日本ノ加奈陀原料品ノ需要ヲ増加スルモノニシ
テ日本ハ加奈陀ノ極東貿易ノ門戸ト云フヲ得ヘシ

本信寫送付先 在晚領事

407 昭和9年10月9日 在ケープタウン藤村領事より
広田外務大臣宛(電報)

南ア羊毛買付問題に関する同国外務次官との
会談について

ケープタウン 10月9日後発
本 省 10月10日前着

第八三號

「先般大藏大臣某所ニ於テ演説ノ際日本ニ南ア羊毛買増ノ用意ナクシハ南アハ日阿貿易調節ヲ爲ササルヘカラスト述

ヘタル旨新聞ニ現ハレタルニ依リ本官ハ外務次官ニ對シ南阿政府ハ特ニ日本ニ對シ既ニ右ノ如キ政策ヲ決定シタル次

第ナリヤト問合セタル處今般同次官ヨリ大藏大臣ノ命ヲ受

ケ南アカ對歐洲關係上種々ノ困難ニ逢着シ其ノ國家經濟上金ニ次キ最重要ナル羊毛ノ輸出モ前途甚々不安ナルニ日本

カ活潑ニ濠洲羊毛ヲ買付ケ居ルコトヲ指摘シ南阿トシテハ外國トノ凡テノ通商商議ニ於テハ羊毛ノ買付數量ニ應シ特

別ノ利益ヲ與ヘ日本ノ如キ比較的少量ノ購買國ヨリノ輸入ヲ是非無ク或程度迄大量購入國ノ爲讓ルノ外ナキニ至ルヘシト回答越セリ

二、右先方説明ノ眞意ハ一方日本ニ對シ警告ヲ與ヘ其ノ羊毛買付ヲ刺戟スルト共ニ他方日本カ若シ相當量買付ヲ爲サハ何等通商上適當ノ考慮ヲ與フヘキコトヲ暗示シ居ルモノト認メラル尙右ハ何等羊毛買付ノ具体的數量ニ付言及シ居ラ

サル爲聊カ茫漠タルモ之ニ依リ當國ノ對日貿易政策ハ明瞭ナルヲ以テ本官トシテハ先方希望ノ合理的買付量ニ付更ニ其ノ意嚮ヲ探ルヘク又本省ニ於テハ此ノ際最近累電ノ南阿

羊毛買増策實現方御盡力請フ

408 昭和9年10月13日 在英國松山大使館商務參事官より
広田外務大臣宛(電報)

二国間貿易均衡化が困難な状況下においては

三国ないし四国間での貿易均衡化を図るべき

旨意見具申

ロンドン 10月13日前発
本 省 10月14日後着

第一六〇號

近來各國ニ於テ二國間貿易均衡ニ關スル協定企圖セラレ居ル處日獨、日濠、日南ア間等ニ見ルカ如キ到底一國間ノミ

トテハ均衡ヲ求メ難キ例鮮カラス然ルニ斯ル協定ヲ三國或ハ四國ノ「グループ」間ニ擴大シ得ルトキハ之カ運用可能トナルヘク貿易伸展上貢獻スル處モ多大ナルヘシト思考ス例ヘハ日獨間ニ於テ本邦對獨支拂勘定丈ケ獨逸ニ本邦品ノ購入ヲ要望スルモ事實上殆ド不可能ヲ強フル譯ナルカ英國カ現在獨逸ニ對スル輸出特ニ「マンチエスター」品ノ輸出代金(全額凡ソ五百萬磅以上)回収不能ニ惱ミ目下協商中ノ處解決容易ナラサル折ナルニ鑑ミ日獨間ニ於ケル本邦側支拂勘定ノ或部分ヲ在獨逸公使ノ對英支拂勘定ニ振向ケ而シテ本邦ハ英國ニ對シ其ノ報償トシテ今回設定セラレタル殖民地市場ニ於ケル輸入割當率增加乃至當市場ニ於テ本邦品ニ大打擊ヲ與ヘタル關稅ノ低下又ハ割當ノ增加(共同護謨靴ノ復活、電球ノ割當)等ノ諸問題ヲ提出要請スルコトノ如キ工作ハ啻ニ我輸出振興上有(力)ナル一策ナルノミナラ

ス國際通商上彼我共ニ有利ナルモノト思考ス或ハ本邦關係者ハ日滿獨ノ關連ニ於テ滿洲大豆ノ代金ニ本邦ノ對獨支拂ヲ振向ケントスル如キ案ヲ考慮シ居様ノコトアランモ元々獨逸ニ取り大豆ハ必需品ナルノミナラス目下取引ノ大部分ハ英國經由ニ依リ且支拂ハ英國中繼商カ其ノ賣先タル油房

409 昭和9年10月20日 広田外務大臣より
在ケープタウン藤村領事宛(電報)

南アの邦品排斥ある以上南ア羊毛買付增加困難なる状況につき注意喚起方訓令

本 省 10月20日後5時発

第四九號

貴電第八三號ニ關シ

(一)引續キ關係省ト協議中ナル處最近我羊毛工業カ不振ニ陷リ一方濠洲羊毛ハ慘落シ割高ナル南ア羊毛ニ對シ何等興味ヲ有セス他面本件買付ノ如キ我經濟的ナル方法ニ基ク損失ノ半ヲ直接利害關係無キ羊毛工業家ニ將來永ク負擔セシメ難ク又昨年ノ買付ニモ拘ハラス南ア政府カ邦品ヲ目標トシ

テ關稅引上爲替ダンピング稅ヲ實施シタル事實等ノ爲メ當業者説得ニ非常ニ困難ヲ感シ居ル次第ナリ

〔本件買付ハ所詰對南阿輸出ノ機譯目的ナルテ云々本件
買付ニ基ク損失ハ主トシテ輸出業者ニ負擔セシムルヨリ外
途ナキカ輸出組合ノ設立ナキ現状ニ於テハ前季通運貨引上

シテ彼等ハ南阿羊毛買付ノ犠牲トナルコトヲ好マサル關係
七如河ニ守護カ幾頃ノタノヽトテ五、六萬表ト云フカ如キ

上如何ニ政府カ懲憲シタレハトテ五、六萬俵ト云フカ如キ
數量ノ買付ハ此際思ヒモ寄ラス結局今季ハ全体ニ於テ貳萬
五千俵程度ノ買付カ精々ナルヘシ

(三)本年八月迄ノ日阿貿易ヲ見ルニ對南阿輸出(一七、七七〇、〇〇〇圓)カ前年全期(一六、九〇〇、〇〇〇圓)ニ比

シ大差ナキニ拘ハラス南阿ヨリノ輸入(七、三〇〇、〇〇〇四)、各(三〇〇、〇〇〇、〇〇〇四)、タマノツクニ

シ居レリ此情勢ニテ進マハ今季二萬五千俵ノ買付ヲ以テシ
テモ兩國貿易ノ不均衡ハ著シク緩和セラルニ到ルヘシ
四右買付量ハ御來示ノ半額ニモ達セサル次第ナルモ事情前
顯ノ如ク差當リ之レ以上ノ買付ハ到底覺束ナク又之レトテ
モ將來南阿側カ邦品排斥ヲ行ハサルコトヲ條件トシ度キ希

アル次第ナルカ他面斯ル相手國殊ニ我輸入超過額ノ巨額ニ
ヲ加フヘキモノタリ現ニ濠洲ノ如キハ無條約關係ニアルニ
不拘本邦品ニ對シ未タ割當制等ノ防壓措置ヲ採ルコトナキ
ハ勿論特ニ爲替補償稅ノ適用ヲ差扣ヘ出來得ル限り當方輸
出貿易ヲ促進セシムルコトヲ心懸ケ居リ更ニ最近ニ至リテ
ハ彼我貿易改善ノ爲ノ通商條約ノ締結ノ爲商議開始ノ提議
ニモ應シタル位ナリ我方トシテハ既ニ濠洲ニ對シ斯ノ如キ
態度ニ出テ居ル以上同シク英帝國ニ屬スル加奈陀ニ對シモ
同一態度ニ出テサル能ハサル筋合ナルニツキ加奈陀ニ於テ
モ此際本邦ヨリノ輸入增加方ヲ考慮セラレ度ク現今邦品ノ
加奈陀輸入ヲ困難ナラシメツ、アル原因ハ主トシテ爲替補
償稅ニ存スト思考セラル、處此點加奈陀政府ニ於テ何トカ
考慮ノ餘地ナキヤ又我國ノ主要輸出品ノ若干品目ニ對シ稅
率ノ引下ヶ方ヲ考慮セラル、事ハ時宜ニ適スル措置ト考へ
ラル、旨述ヘタルニ對シ加公使ハ御話ハ自分ニ於テモ極メ
テ良ク了解スル處ナルカ加奈陀側トシテ日本品ノミニ對シ

方通商局長との会談内容について

本省 10月20日後6時0分発

410
昭和 9 年 10 月 20 日
在カナダ徳川公使宛(電報)
庄田外務大臣より

望アルニ付貴官ハ南阿當局ニ對シ右本件買付ノ困難ナル事
情ヲ篤ト説明ノ上本件買付ニハ南阿政府ノ邦品排斥ヲ行ハ
サルコトヲ保障セサル限り具体化困難ナル點ニ先方ノ注意
ヲ喚起シ切メテ右ノ諒解丈ケニテモ取付ケ置カレ度シ(此
際右數量ヲ先方ニ申入ルルコトハ差控ヘラレ度シ)

五万俵の南ア羊毛買付が必要との観測について

ケープタウン 10月27日後発
本省 10月27日後着

第八五號

貴電第四九號ニ關シ(南阿羊毛買付計畫ノ件)

(一)一十三日「プレトリヤ」ニテ大藏商工農務ノ三大臣ニ面會御來示ノ趣旨ヲ説明スルト共ニ日本ノ羊毛買増ヲ援助スル爲南阿側ニ於テ一、羊毛值鞘一部負擔即チ日本向羊毛輸出補助金ノ増額二、將來日本品防遏中止ノ保障三、現行爲替「ダンピング」稅ノ緩和方ヲ力說要請シタルニ各大臣トモ右一ハ貿易上ノ對外差別待遇トナリ又二ハ現下不安定ナル國際經濟情勢ニ鑑ミ全然不可能トナン殊ニ大藏大臣ハ強硬ニシテ右一及三ハ唯日本ノ羊毛買付程度如何ニ係ルノミ自分ハ日本ノ一定量買付ヲ要求スル意思無キモ兔ニ角日本側カ現實ニ南阿市場ニ買進ミ來ラン事ヲ希望スルモノニテ斯テ日本カ南阿農民ヲ援助セハ政府トンテモ排日貨運動鎮壓ニ力ヲ得ル次第ナリト述ヘタルカ次ニ商工省ハ右一及二ノ件ハ不可能ナルモ何カ外ノ方法ニテ日本ノ羊毛買付促進ニ協力方考究スヘク差當リ三ノ件ハ早速調査シ出來得ル限

テ四、五萬俵ノ買付ヲ爲スニ非サレハ日本ノ誠意ヲ感銘セシメ得サルヘシト述ヘタル事アリ又今回商工大臣モ今期日本カ五萬俵位買付ヲ爲サハ當國羊毛市場安定ニ貢獻スルコト大ナルヘント語リ大体南阿一般ノ満足トスヘキ程度モ推察セラルルニ付御來示ノ如キ二萬五千俵ト限ラス出來得

リ日本側ニ激励ヲ與フヘシト述ヘタリ

(二)尙同日本官ハ外務次官ニ對シ爲替「ダンピング」稅ノ爲日本品カ南阿ニ於テ南阿產品トハ勿論同一外國商品トノ競争不可能トナリタル事例ヲ例證シタルニ同次官ハ自分モ右稅カ日本ニ惡感情ヲ與ヘ居ル事ヲ遺憾トルモノニテ殊ニ右ノ如キ事例ハ日本ニ對シ不公平ニ付其ノ具體的數字ヲ與ヘラルレハ事態改善方誠意努力スヘシト語レリ
(三)南阿ノ對日態度右ノ通ニシテ右二ノ保障ハ與ヘサルモ三ニ付相當妥協的トナリ居リ從テ現在ノ處急ニ新ナル排日手段ハ採ラサルヘシト認メラルカスノ如ク漸ク好轉セントスル南阿側態度ヲ確保促進スル爲ニハ差當リ日本側ニ於テ先方ノ出様如何ニ拘ラス早速相當量ノ買増ヲ實行スヘク其ノ方法トシテハ此ノ際無益ナル當業者間競爭ノ弊モ堪ヘサルモノアリ特ニ鞏固ナル輸出組合ヲ組織セシメラル事甚夕時宜ニ適セセヤト認メラル而シテ其ノ買付量ニ付先般本官當地ニテ當國 Wool Sellers' Association 會頭 Kramer ト會談ノ際同人ハ去年ノ如キ二萬俵程度ニテハ全然問題トナラサルノミカ日本ハ排日除ノ爲相不變南阿市場ヲ tamper. シ居ルニ過キストノ印象ヲ與ヘ又復輿論ヲ悪化セシメセメ勿論ナリ

ル限り五萬俵ニ近キ數量ヲ計畫實行セラルル事結局有利ナルヘク且右數量決定ハ別トスルモ前記大藏大臣ノ言ノ如ク此ノ際速ニ當國市場へ註文ヲ發スルコト緊急必要ト存セラル尙當方ニ於テハ極力先方ノ排日手段緩和ニ努力スヘキ事